

地域づくりレポーター＜4～5月度レポート＞
テーマ：「住民参加による事業の推進について」

報告者：黒沼貞志

今回のテーマは小職が主に行政領域（県、総合支庁、市）でいろいろコミットさせて載っている案件と関連しておりますので、そのような事例を踏まえてレポートさせて戴きます。

提供戴いた資料の中で＜ホロヒラみどり会議＞は興味深く拝見致しました。

ダイジェスト版ですが「新しい住民・市民参加のかたち」と冠するだけの内容に耐えるものと思います。

ダイジェスト版の限界の中に、小職がこれまで主張させて戴きました「プロセスのオープン化（アカウントビリティ）」の流れが垣間見えていて、本論の内容が推察出来ます。

他県の様々なところで同様の動きが発生しているのではと期待されるところです。

さて、当山形県はどうかということになりますが、前述の行政の方々との付き合いの中では、対外的にはもちろん行政内部でもまだまだこれからという印象が拭えません（もちろん、小職の情報収集力の限界もありますので必ずしも的を得ていない可能性もあります）。

前回のレポートでも、意見のレポートのみでは現実味が伴わないため、実践事例を紹介しました（「バリアフリー推進チーム」提言書）。

市の委嘱業務ですのでその提言書を市の了解無しにはお渡しできませんが、上記＜ホロヒラみどり会議＞と比較しても遜色の無い活動（回数や内容）ではないかと思っております。

時間を頂戴できましたら、お見せしながら山形版新住民参加型で、且つ、「プロセスのオープン化（アカウントビリティ）」が出来ている実践事例としてご紹介できると考え提案致しましたが、残念ながら貴地域づくり推進室からノーアンサーでした。

一方、同じ市からの委嘱で「男児共同参画推進協議会」の初会合では、年3回、各1.5時間程度の協議予定とお聞きし、正直言って何が出来るのだろうか（何を期待されているか）という印象を強く抱くような経験もしております。

行政施策の審議会答申方式に限界を指摘されて（行政の階層レベルにもよりますが）既に久しいと思います。

住民の参画は現在では事例を待つまでも無く施策立案までコミットしてきております。

*「住民が行政の敷いたレールと列車に乗る時代から、どのようなレールでどこへ、どのような列車で…にまで参画する」*ステージに入っているという認識があります。

また、村山総合支庁&最上総合支庁の総合支庁長をはじめ職員の方々にも話す機会を頂戴しております。

県行政は総合支庁制が敷かれて総合戦略プランが立案されその実行ステージの前に立っております。

れます。その実行をどのようにするか衆知を得るべく声を掛けて戴いたものと感謝しております。一言で言いますと両総合支庁長、職員共に戦略・事業プランを机上のプラン（絵に描いた餅）で終わらせないために取り組まれておられます。

そのためにはプランを基に実施計画書&作業工程表からなる『アクションプラン』を構築して実行し、『プロジェクトマネジメント(事業遂行管理)手法』による進捗管理が必須と考えて、その方法・手法の提案・実践事例の紹介・討議をさせて戴いております。

現在、今後のコミットの可能性など検討戴いているところです。

当「山形県内地域づくり推進協議会」の〈地域づくりレポーター〉における住民参加のポリシー&コンセプト（「意見をだしてもらい、その取り扱いの基本は貴所の判断になる」という貴基本方針：中間報告会で確認されました）は、今のままで各レポーターの貴重な？意見が貴施策に十分に活かされるのでしょうか？

レポーターの方々の本作業に費やす時間の総数はボランティアとは言えかなりのものとなるはずです。この無償の協力はひとえに少しでも行政施策に活かされ、少しでも社会が良くなればと言う〈想い〉に支えられていると思います。

世間（企業社会）では、厳しいアカウンタビリティが要求される場合は、採用された意見、コメントなどがどこに、どのように活かされたかの検証（トラッキング or トレーサビリティが必要）まで求められるケースもあります。

例えば、各レポーターの様々な意見の検討・取り纏めなどにもレポーターの参画が企画されますと、行政領域の新しい住民参加の「プロトタイプ」に少しでも近づけるのではと思い中間報告会でそのような意見を出させて戴きましたが・・・不採用となりました。

住民参加を突き詰めていくと行政の具体的なサービス領域は出来るだけ「アウトソーシング」の活用という考えも一策です。

その場合、行政の職員のやることは何になるのか？ということに行き着きます。

このような課題（問いかけ）に纏めた資料がありますので（上記行政領域の方々との付合いの中で話題提供させて戴いております）参考に添付させて戴きます。

住民が行政の敷いたレールと列車に乗る時代から、どのようなレールでどこへ、どのような列車で・・・にまで参画する」という小職の前述の住民参画の状況認識が正しければ、当〈地域づくりレポーター〉の住民参加の有りようの現状はその落差が気になるところです。

以上